

## 1. 内政

### 【新内閣成立】

#### ▼15日、大統領によるフィリプ首相候補の指名。

- ・15日、ティモフティ大統領は、議会内多数派によって推薦されたフィリプIT・通信相代行(民主党)を首相候補に指名。
- ・16日、自由民主党は反対を表明、野党に回ることを決定。
- ・社会党および「我らの党」、並びに市民プラットフォーム「尊厳と真実」は、それぞれ抗議運動を開始。

#### ▼20日、議会は「フィ」首相候補を承認。

- ・急遽開催された特別会合にて「フィ」新内閣の信任投票を実施、出席議員68名中57名が賛成・可決。賛成したのは民主党、自由党、旧共産党議員および一部の自由民主党議員から成る議会内多数派。会合は約30分で終了。

#### ▼同日深夜、大統領は新首相を承認する大統領令に署名、秘密裏に宣誓式を実施。

#### ▼21日夕刻、フィリプ新内閣の初の閣議開催。

- ・首相は新内閣の優先課題として、(1)市民の保護、(2)2016年予算の策定、(3)IMFミッションの早期派遣に向けた条件整備に言及。

#### ▼27日、カンドゥ議長は近く辞任する意向を表明。

- ・議会内多数派に参加した党のうち、民主党は首相を擁していることから、議長職は他の党に譲るとした。

### 【野党運動】

#### ▼20日、議会における抗議活動とデモ隊による議会建物への侵入。

- ・社会党、「我らの党」、「尊厳と真実」は抗議活動を強化、夕方には数千人が議会の周囲に集まり、警察隊と衝突。デモ隊は議会通用口を破壊し、一部が議会建物内に侵入。

#### ▼21日午後～、野党抗議運動の継続。

- ・社会党、「我らの党」、「尊厳と真実」が共闘開始、議会前および首相府前で大規模な集会を実施。1万人以上が参加。憲法裁判所に対して首相信任投票の無効を申し立て(22日に却下)。

#### ▼同日午後、フィリプ首相は市民へ呼びかけ。

- ・抗議活動は民主的な意見表明のための重要な形態であり禁止されてはならず、法を遵守した平和的なものである限り政府はその安全な実施を確保する必要がある、対話は行われるべきであり、問題は建設的かつ誠実な交渉によって解決されるべきである、自分は首相として、モルドバの平和と安定、経済的・社会的発展および市民の安全のために全力を尽くす旨述べた。

#### ▼同日夕刻、カンドゥ・モルドバ議会議長は野党指導者との対話を実施。

- ・野党側から、ドドン社会党党首、ウサティ「我らの党」党首、ナスタセ「尊厳と真実」代表が参加、首相信任投票の撤回と

期限前議会選挙の実施を要求。

- ・22日夜、カンドゥ議長は、右に対する議会内多数派の回答として、期限前総選挙の実施は法的に不可能である上、深刻な経済・社会的停滞をもたらすと述べた。野党側はこれに反発。

#### ▼22日、バセスク・ルーマニア元大統領は、「尊厳と真実」が社会党および「我らの党」との連携を決定したことは誤りであると批判。

- ・フィリプ首相を誰が操っているかは分かっており、同首相を信頼できないことは理解するとしつつも、内閣の不在はモルドバに悲劇をもたらすものであるとした。また、「尊厳と真実」はむしろ自由民主党と提携すべきであるとした。

#### ▼24日、大規模な野党抗議集会・デモの実施。

- ・統一野党勢力(社会党、「我らの党」および「尊厳と真実」)によるもので、数万人が参加。
- ・集会では「救国会議」の創設を決定。また「決議」が採択され、現政府の退陣、本年4月の期限前選挙の実施、収監中の政治犯の釈放、「尊厳と真実」の早期政党登録、内相の早期解任等を要求。政権の回答期限を28日17時に設定。

#### ▼29日、カンドゥ議長は野党側の要求に対する議会内多数派の回答を発表。

- ・直接大統領選挙制導入に係る国民投票実施を受け入れ。
- ・いくつかの政府機関の長の解任要求については、個々の機関の状況により対応。ジズダン内相解任要求は拒否。
- ・ペトレンコ「政治囚」の釈放については、野党、NGO、国際機関代表が参加する特別委員会を設置することは可能。
- ・議会解散と期限前選挙の実施は憲法の規定により不可能。既に困難なモルドバの情勢を更に悪化させるだけである。

## 2. 経済

#### ▼25日、カルムイク経済大臣は今後100日間の優先課題について発表。

- ・IMFとのメモランダム締結交渉、EU連合協定の義務の履行、ビジネス環境整備、ガスパイプラインの延長プロジェクト等に言及。

#### ▼25日、農業・食品産業省は3ヶ月の優先課題を発表。

- ・2014～20年の国家農業・地方発展戦略の履行、農民による石油製品輸入のためのメカニズムの発展、農業助成の強化、農業用品の価格自由化、近代化等を挙げた。

#### ▼26日、国家エネルギー統制局は、天然ガス消費者価格につき決定。

- ・2月1日から平均11%の値下がりとなる予定。
- ・主な理由は、ロシアからのガス輸入価格の減少と、法改正により同局がガス輸送ネットワーク業者の活動を完全に統制する権限を得たこと。

### ▼28日、経済省は、EUによる18.75百万ユーロのエネルギー・環境支援を発表。

・東欧エネルギー効率化・環境パートナーシップの枠内で行われるもので、基金の管理はEBRDが実施。

### ▼29日、財務大臣は国家中央税査察局長官および関税庁長官を解任。

・企業に対して過大な査察が行われているとのフィリプ首相の指摘を受けて。

## 3. 外政

### ▼26日、フィリプ首相はルーマニアを訪問。

・今時訪問は、前週末にチョロシュ・ルーマニア首相との間で合意されたもの。二国間協力、モルドバのEU連合協定に基づく改革アジェンダ、エネルギー協力等について協議。

・外相会談後の記者会見においてチョロシュ首相は、ルーマニアによる150百万ユーロの対モルドバ融資について、「我々はEUおよびIMFの金融支援と協調するつもりであるが、本件支援をモルドバがIMFとの新モラメントを締結するまでの橋渡しとしたい」と述べると共に、モルドバが第一トランシュ(60百万ユーロ)を受け取るための条件として、各種改革のための具体的な措置を取ることを挙げた。

・ヨハニス大統領とも会談。大統領より、モルドバの改革およびEU統合に対する支援を改めて表明。

## 4. 各種統計

### ▼19日、モルドバ社会学者・人口統計学者連盟による世論調査結果の発表。

・1,191名が回答。うち48.5%がモルドバの政治家を信頼していないとした。

・信頼度の高い順に、ドドン社会党党首(15.2%)、ウサトイ「我らの党」党首(14.9%)、サンドゥ元教育大臣(9.4%)、ナスタセ「尊厳と信頼」代表(8%)、レアンカ欧州人民党党首(7.4%)、ヴォローニン共産党党首(7.1%)。

・次の日曜日に選挙が行われたと仮定した場合の支持政党については、社会党16.9%、「我らの党」14.8%、「尊厳と真実」プラットフォーム党9.1%、欧州人民党6.5%、民主党6.3%で、自由党、共産党および自由民主党は足切りライン(6%)を超えなかった。

・期限前議会選挙の実施を支持したのは65%。

### ▼27日、トランスベアレンシー・インターナショナルは各国の汚職指標を発表。

・モルドバは168カ国中103位。

### ▼28日、検事総局は、2015年のモルドバの犯罪率が4.8%減少したと発表。

## 5. 二国間関係

### ▼27日、モルドバ政府はブマコフ次期駐日大使人事を承認。

・元農業・食品産業大臣。日本の対モルドバ支援である2KR(貧困農民支援)に長く携わった。

(了)